

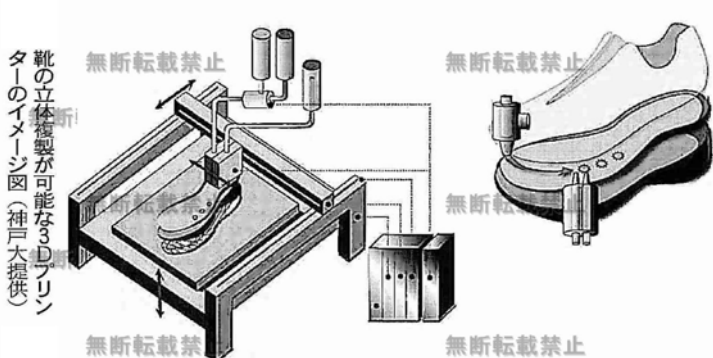
靴作り 産官学で共同開発へ

3Dプリンターで

歩き方の癖や歩幅、デザイン好みなどのビッグデータを集めて反映させ、靴の立体複製が可能。3D（3次元）プリンターの開発に、神戸大や県立工業技術センター、アシックスなどが共同で乗り出す。成功すれば、靴の製造工程が大幅に簡略化され、オーダーメイドのランニングシューズなどの大量受注も可能になる。

（加藤あかね）

特注品の完成 大幅短縮



ビッグデータ活用 好みの機能性、デザインに

靴メーカーが集積する神戸の地場産業を生かし、企業、研究機関などが産官学共同で開発する。今月15日、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム」に採択された。2014、15両年度で計4億円が助成される。

データ集積にはインターネットを活用。消費者の足の大きさなどの数値データを製造工程に反映させる仕組みを構築する。

従来の3Dプリンターは硬質のもの複製用で、ゴムなどの複製は難しかったが、形状だけではなく、通気性や耐久性などの性能もデータとして取り込み、複製を可能にするという。

靴の製造工程は、金型に合わせて作った靴底を接着剤で貼り合わせるなど複雑で、新モデルの金型作りから靴の完成まで通常約5週間かかるが、3Dプリンターを活用すれば、金型や接着作業が省略されるため、最短3日間で完成するという。5年後の実用化を目指す。

開発グループでは「靴製造だけでなく、将来は医療や介護用品、スポーツ用品にも応用できる可能性が広がる」としている。

ビッグデータ 全球測位システム（GPS）の位置情報やインターネットで検索された単語など膨大なデジタル情報の総称。2013年度版「情報通信白書」は、フル活用すれば年間7兆7700億円は、フル活用すれば年間7兆7700億円の経済効果が見込めるとした。